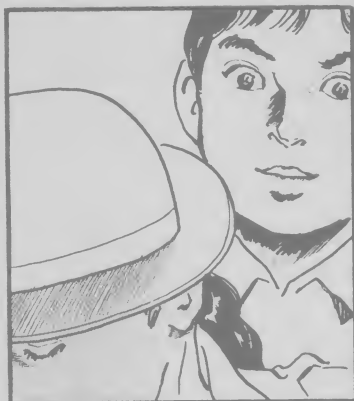
マデ10キロ

家族

下城忠雄

わーっ、
入った。
入ったわ。
ナイス
パット。

ひょっとして、私達は、その箱から
飛び出したのかも知れない
その箱　家族として、だれもが
結ばれている　心の箱

パパ………

有能な　実業家らしく
今日も又、お仕事なのですよ

ねっ、………パパ

でも、パパは
嫌いじゃない。
だって、この快適な暮ら
しは、彼の御陰だもん。
だからさ、これ以上のも
のをパパに、求める事態
贅沢ってゆうもの
なんだ。………

パパは 出掛た
ようね
珠樹さん
あら～
お勉強なの
姉の 前世は、多分
こそ泥だったでしょ。
女はね、
無知が一番よ
無知が
――要件
お金ですが、
おー、流石
姉妹。
少しでいいんだ
少しで

どうど。
……わるい。
そうよ。
あなたもたまには、
息抜きしなさい。
うん。
二、三日
じゅうには、
返すわね。

そう、
あなた、
珠樹さん

この頃 ママさ、
なんだか
すごく、
若がえったと
おもわない。
えっ、………
い、いえ

そう～
ふふ……
それじゃっ

タン

彼女はどうして
覚醒剤に溺れているのか
まっ、我が儘な女だから
たいした 動機など
ありはしない ……だろ。

それより、彼女の、ママへの指摘、あれは鋭いよ
ふふ、だってさ、私、見ちゃったんだもん………
カチャ
フハ～

あ〜 英次さん

珠樹さん、
珠樹さん。

あ、あ、
ママ
どうしたの、
さきほどから
何度も
呼んでたのよ

あのね
ママ、
英次さんと
ちょっと
出掛けて
来るの。

それで、夕食は、
外で
いただいて
くるかも
しれないけど
あなた、一人で
大丈夫ですね。ねっ

まぁほほ
ふふふ

何が夕食だ
嘘つき
ババァめ

だけど、ママも、可愛相な女ね
パパとの間は疾うに、冷めているし
まっ、パパはいいよ、他に愛人を囲め
ばいいけど、愚鈍なママはさ、
だけど、あの二人どんな気持ちなのかな
実際、聞いて見たいよね。

あっ
お出掛ですか
お嬢さま、
えっ……う、うん
お友達の
お誕生会に
招待されて
るの、うん、
そうなの

知らぬは……ばかり。
2
3
4
5
6
7
8
9

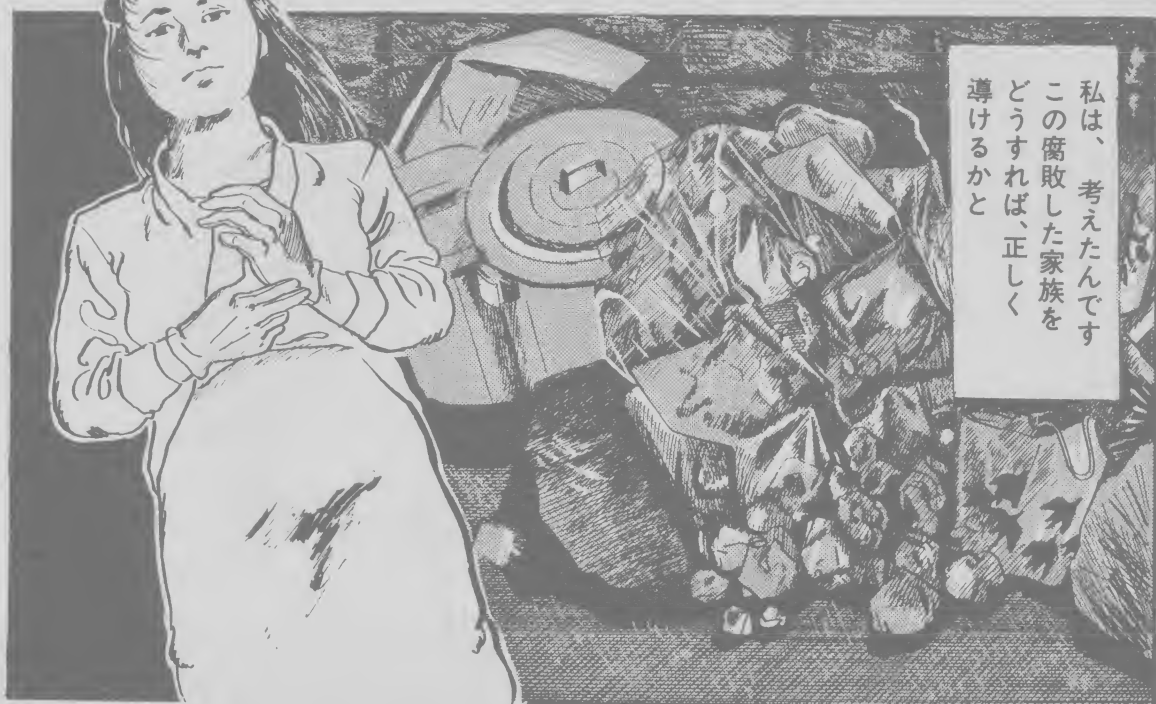
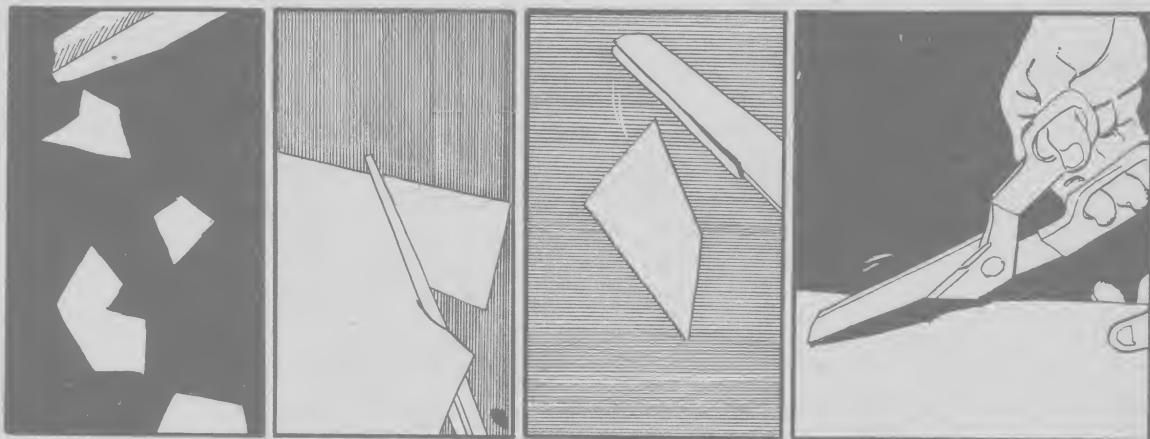
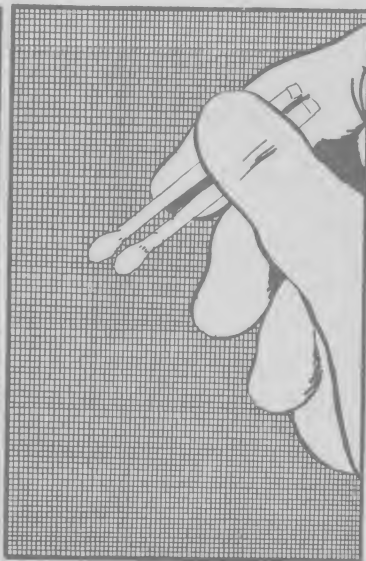
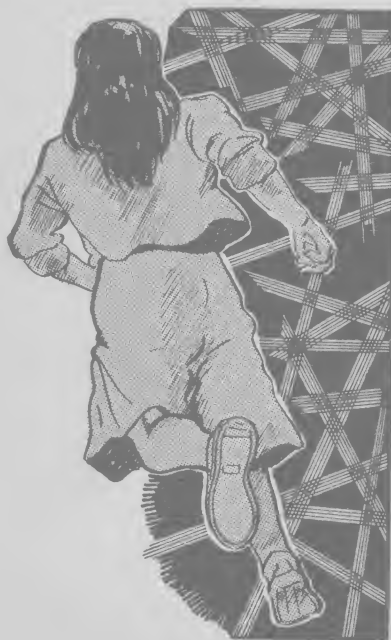
あっ、もしもし
そちら、
R株式会社
ですか
はい、
こちら、
R株式会社
ですけど
…………
もしもし
こちら
R株式会社
ですけど
もしもし
どちら様
でしょうか
もしもし、
もしもし、

もしもし、
もしもし、

キュルルー
キュルルー
カアチャン

かちゃん

解ってくれました、
兎にも角にも、これが
我が家族の実像
なんですよ、

アリガトウ
ゴザイマス、

ちょきーん
私は、考えたんです
この腐敗した家族を
どうすれば、正しく
導けるかと

でも、その努力は、
多分、無駄骨でしょう
ひとつの箱から
飛びだした
私達家族は
もう〜 ひたすら
彷徨い続けるしか
ない見たいです。

だけど、それは それで
いいかもしれません。
結局、最後の黒い
火傷跡は、
自分自身で
舐めないと
いけないのですから